

(様式第2号)

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成18年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	デザイン研究科カリキュラム・教育運営のあり方				
配分を受けた 特別研究費	デザイン研究科長特別研究費 1,000千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン学部	生産造形学科	教授	伊坂 正人	他 5 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:			号 数	第 号 ( 頁～ 頁) ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:デザイン研究科教授会において発表・報告			発表日	平成19年2月8日

- ☐ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。
- ☐ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

## 「デザイン研究科カリキュラム・教育運営のあり方」検討会 検討報告

[2007年2月8日]

■検討経緯 平成18年度デザイン研究科長特別研究費  
「デザイン研究科カリキュラム・教育運営のあり方」

■検討会構成 伊坂正人（研究代表）、黒田宏治（研究代表代行）  
三好 泉、望月達也、宮田圭介、寒竹伸一／川口宗敏（オブザーバー）

■主な検討経過 A.検討会

第1回	7月13日(木)
第2回	8月4日(金)
第3回	10月26日(木)
第4回	1月11日(木)

B.事例調査

東北芸術工科大学 大学院芸術工学研究科（9月/宮田）  
滋賀県立大学 大学院人間文化学研究科（10月/黒田）  
愛知産業大学 大学院造形学研究科（12月/三好）  
東京大学 大学院総合文化研究科（12月/寒竹）  
新潟大学 大学院自然科学研究科（12月/寒竹）  
九州大学 大学院芸術工学研究院（12月/黒田）

■主な検討内容

- ①入試実施について
- ②カリキュラム構成について
- ③その他大学院運営について

## 1. 入試実施について

### 1-1. 入試日程

- ・現状では、前期日程／A日程（10月21日）、後期日程／B日程（3月3日）は実施（試験日は2007年度のもの）。

＊前期は8月下旬～10月頃実施の大学院が多く、おおむね標準的な日程とは考えられるが、やや遅めではある。

＊私大大学院の中には早期学生確保のため7月に入試を実施している例がある。

＊後期は1～2月頃実施の大学院が多く見られ、本学の日程はかなり遅めである。

＊3月では不合格の場合に就職もままならず、受験生心理からはためらいもある。

→・B日程は、2月初旬（または1月下旬）が望ましい。

・A日程は、9月実施が望ましい。

### 1-2. 入試区分

- ・現状では、受験生の区分はなく、一括りで募集・試験を行っている。

＊大学院（デザイン系）によっては留学生も少なくなく、留学生用試験を分けて実施している例も見られる（英語免除など）。

＊大学院の中には社会人入試の実施例も少なくなく、文化政策研究科では2007年度より社会人入試も取り入れ学生確保の実績もある。

＊本学（大学院デザイン研究科）でも留学生からの受験問い合わせ、企業からの相談も出始めている。

→デザイン研究科において、一般（学内外大学生を想定）に加え、留学生および社会人を対象にした入試実施が必要である。

### 1-3. 入試配点

- ・現状では、英語200点、専門基礎300点、口頭試問・提出物500点（試問100点、研究計画100点、提出物300点）で、合計1,000点の構成である。

- ・提出物については全教員で採点し平均点を評価点としている。（計画書も準用）

＊合計1,000点、英語200点というのは過重負担な印象を与え、学生に受験を躊躇させている可能性も考えられる。

＊提出物の専門分野も多様であり、全教員での採点はバラツキの平準化の利点は考えられるが、必ずしも適正とは言い難い。

＊入学後の研究状況を鑑みると研究計画意識が脆弱であることが問題である。受験段階で研究計画マインドの涵養を図るようなことも必要ではないか。

→・入試配点は、筆記100点（英語40点、専門基礎60点）、口頭試問100点（研究計画を含む）、提出物100点で、合計300点としたらどうか。

- ・提出物、研究計画等の採点評価は当該専門分野にて行う（全教員でなく）。ただし、全教員に供覧の機会を設ける必要はあるだろう。

#### 1-4. 事前提出物

- ・現状では「論文またはポートフォリオ」（卒業見込みの人は卒業論文計画書も可、ほか注記略）である。

＊作品などに特に制限を設けないため、学部入学時の描写など含め、量を競うように提出してくる学生も少なくなく、煩瑣であり提出物として疑問もある。

→提出物については以下のようにする。

作品または論文（または卒業論文計画書）

＊設計・造形作品は3点以内を作品集（ポートフォリオ）にまとめて提出

＊映像・サウンド作品はVHSテープまたはDVテープを使用

＊論文には3,000字以内の概要書を添付

＊大学卒業見込みの学生は論文に替えて卒業論文計画書（3,000字程度）も可

#### 1-5. 専門領域区分

- ・本年度入試では、デザイン研究科の専門領域として次の7つを表示し、専門基礎の出題を行っている。この領域は、学生に研究分野を伝えるためのものであり、教員組織を表すものではない。ただ、複数の教員が関与することとしている。

ユニバーサルデザイン（古瀬、三好）

デザインマネジメント（伊坂、河原林、黒田）

グラフィックデザイン（佐井、古田）

プロダクトデザイン（迫田、河原林、三好、望月、宮田）

映像・マルチメディアデザイン（古田、長嶋）

都市・環境デザイン（川口、寒竹、黒田）

建築・インテリアデザイン（川口、寒竹、横山）

＊受験生からでは「プロダクトデザイン」の領域表示ではCAD関係等技術寄り分野の存在が見えにくい。例えば「技術造形デザイン」として分けた方が専門性がわかりやすいのではないか。

## 2. カリキュラムについて（科目構成・配置等）

- \* 特論科目に関して領域区分は実状にそぐわないように思える。領域区分なく配置してよいのではないかな。
- \* 現状では、学生と指導教員の接点がやや少なく、特別研究の単位増により解決できるのではないかな。
- \* 特論科目は、複数担当より、1 教員担当としてまとまりのある授業とした方がよいのではないかな。また、専任教員による担当が基本だろう。
- \* 特論科目については、1 教員 1 科目の担当が適当と思われる（学部授業含めての負担面から）。
- \* 現在の科目に加えて、例えば最新デザイン動向を扱う科目「現代デザイン論（仮）」（非常勤のオムニオバスなど）、修士研究の進め方、リタラシーの内容を扱う科目「研究計画デザイン（仮）」、などもあっていいかもしれない。
- \* 現状では、特論科目は 1 年前後期、2 年前期の配置になっているが、修士研究指導や社会人対応から、1 年前後期の配置への変更が望ましい（2 年次での履修を妨げるものではない）。
- \* 学外実習については、現状 4 週間となっているが、実習先確保などの面から必ずしも実状にそぐわない。2 週間以上で運用してよいのではないかな。

### ■ 1 案としての科目構成見直し例（H20年度以降想定）

区分	科目名	配当	単位	担当教員	修了要件
特論領域	ユニバーサルデザイン特論		2	古瀬	12単位以上
	ビジュアルデザイン特論		2	佐井	
	エコロジカルデザイン特論		2	林*	
	都市デザイン特論		2	川口	
	デザインマネジメント特論		2	伊坂	
	地域産業デザイン特論		2	黒田	
	建築デザイン特論		2	寒竹	
	フィッティングデザイン特論		2	三好	
	プロダクトデザイン特論 1		2	迫田	
	プロダクトデザイン特論 2		2	河原林	
	CAD デザイン特論		2	望月	
	インターフェースデザイン特論		2	宮田	
	映像デザイン特論		2	古田	
	メディアデザイン特論		2	長嶋	
	インテリアデザイン特論		2	横山	
	ランドスケープデザイン特論		2	川口	
演習領域	演習	**	各 2	担当教員	4 単位以上
	学外実習	**	2	担当教員	
特別研究	特別研究 I	1	6	担当教員	12単位
	特別研究 II	2	6	担当教員	
—	—	—	—	—	30単位以上

（注 1）特論科目の配置は、いずれも 1 前または 1 後とする。科目名は検討途上案である。

（注 2）教員欄の\*は非常勤。配当欄の\*\*は 1・2 前・後。

■科目構成・配置（H19年度予定）＜参考＞

■科目構成・配置（15年度予定）を参考に

区分	科目名	配当	単位	担当教員	修了要件		
基礎領域	ユニバーサルデザイン特論	1 前	2	古瀬、三好	6 単位以上		
	パブリックデザイン特論	1 前	2	川口、迫田			
	ビジュアルデザイン特論	1 後	2	佐井			
	エコロジカルデザイン特論	1 後	2	林＊			
	デザイン史特論	1 後	2	黒田、寒竹			
展開領域	計画分野	都市デザイン特論	1 前	2	川口	4 単位以上	10 単位以上
		デザインマネジメント特論	2 前	2	伊坂、河原林		
		地域産業デザイン特論	1 後	2	伊坂、黒田		
		ハウジングデザイン特論	2 前	2	寒竹		
		フィッティングデザイン特論	2 前	2	三好		
	設計分野	プロダクトデザイン特論	1 前	2	迫田、河原林	4 単位以上	
		技術造形デザイン特論	1 前	2	望月、宮田		
		メディアデザイン特論	2 前	2	長嶋		
		インテリアデザイン特論	1 後	2	横山		
		ランドスケープデザイン特論	2 前	2	川口、寒竹		
		エンタテイメントデザイン特論	1 後	2	古田		
演習領域	演習	＊ ＊	各 2	担当教員	6 単位		
	学外実習	＊ ＊	2	担当教員			
特別研究	特別研究Ⅰ	1	4	担当教員	8 単位		
	特別研究Ⅱ	2	4	担当教員			
—	—	—	—	—	30単位以上		

（注）教員欄の＊は非常勤。配当欄の＊は1・2 前・後。

### 3. その他大学院運営について

- ・修士研究指導に伴い、相応の調査旅費（フィールド調査等）、材料費（模型製作等）、資料購入費（調査資料収集等）などが派生するが、他大学では指導学生数に応じて指導研究費が配分される例もあり、本学でも円滑かつ効果的な研究指導のため導入を検討できないか。
- ・学部から大学院（修士課程）への就学継続に際し、現状では学生にとって経済的負担感も小さくないようで（学生個々で事情は異なるが・・・）、修士学生対象の奨学金制度の充実、あるいはTA等授業補助（有償）での登用なども、就学環境整備の課題と思われる。
- ・他大学では「研究生」という扱いで大学院受験に備える例も見受けられる（近年は留学生が多い）。本学でも学生確保の観点から、研究生制度をもう少し利用しやすく工夫してもよいのではないかと。（参考：現在は1年間で研究料等747,600円＋入学科84,600円。学部生は授業料等927,800円／年である。）